

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第120号 〔2020年6月発行〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。
JAMより、2020年6月号の会報をお送りします。

JAMは2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動を2カ月に一度、会報メールにて発信いたします。
今号では、前回の臨時号に引き続き、メータオ・クリニックにおけるCOVID-19対応の現状などをお伝えいたします。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次>

メータオ・クリニック 現状報告

国内から

編集後記

次号の予定



メータオ・クリニック 現状報告



【JAM 現地派遣員 有高 奈々絵】

私が一時帰国してから早2か月半、COVID-19の第一波は少なくとも東アジア、東南アジアでは収束を迎えつつあるように見えます。タイでも緊急事態宣言は続いているものの夜間外出禁止時間の短縮、飲食店やジムの再開、県境をまたいだ移動の再開が始まりました。また、5月23日からはタイ全土から集まったミャンマー移民が毎日1000人まで、メソトの友好橋を通過してミャンマーへ帰国しているとのこと。しかし、経済活動や人の移動の再開に伴い感染者数がある程度増えるのは避けられず、タイ政府も外国人の入国を含めたすべての制限解除は慎重に判断する姿勢を崩していません。

JAMは4月以降、12名の方から計703,000円の貴重なご支援をいただきました。パンデミックにより日常生活も経済活動も大きな制限を受けている中で、遠く離れた国境の人々に連帯をお示しいただき、JAMおよびメータオ・クリニックを代表して心より深謝申し上げます。いただいたご支援はメータオ・クリニックに最も意味のある形で、早い時期に役立てさせていただき、またご報告させていただきます。

本日はJAMがメータオ・クリニックに3月28日に送金したCOVID-19緊急支援金125万円(380,000 THB)の用途についてご報告いたします。メータオ・クリニックからの公式な支出報告ではなく、また一部は現時点での予算案なので最終的な支出とは若干の誤差が生じる可能性があります。大まかな用途としては以下の通りです。

①	隔離病棟用物品 N95 マスク、フェイスシールド、キャップ、手袋、使い捨てガウン、靴カバー	62,700 THB (6月8日現在のレートで約21万円) (写真①)
②	一般病棟用物品 サージカルマスク、フェイスシールド、手袋、キャップ	153,515 THB (約53万円)
③	通信費	24,000 THB (約8万円)
④	スタッフの緊急採用費	22,602 THB (約8万円)
⑤	UV 滅菌箱	14,000 THB (約5万円)
⑥	洗濯機	24,000 THB (約8万円)
⑦	手洗い台	31,998 THB (約11万円)
⑧	メソト病院への患者搬送費、自宅への交通費	39,265 THB (約14万円)
	合計	372,080 THB

メータオ・クリニックが緊急支援の要請を開始した直後にJAMからまとまった額を送金できたことでその時点で直ちに必要なものの購入に充てられており、大きな意味があったと思います。ご支援いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

クリニックは、3月以降トリアージスペース(写真②)や隔離室でCOVID-19疑い症例に対応すると同時に、それ以外の通常業務もsocial distancing(写真③)や消毒に留意しながら続けています。



6月1日までに29人のCOVID-19疑い例に対してPCR検査を行いました。幸い全員陰性でしたが、国境閉鎖に伴う人および物流の停止がクリニックに大きな影響を及ぼしています。例えば今までミャンマー側の病院にて無料で治療を受けられていたタイ側のHIV/AIDS患者さんが治療にアクセスできなくなりました。また、クリニックで新規にHIV/AIDSと診断された患者さんも10人以上に増加し、クリニックは今まで行っていなかった抗HIV薬の投与を行う必要に迫られました。その予算は前回の会報でお伝えした緊急予算には含まれていなかったものですが、支援要請活動の結果、英国のドナーからの支援を得て、5月以降はメータオ・クリニックが抗HIV薬を購入、処方できるようになりました。現在、クリニックのメディックと医師が患者さんとともにメソト病院のHIVクリニックに週1回赴き、メソト病院の医師と一緒にHIV/AIDSの診療を行っています。ここまで密接な共同体制は今まであまり見られず、今回のCOVID-19パンデミックという危機を通じてタイコミュニティとの繋がりが深まった好例ではないでしょうか。

日本でも「新しい生活様式」が推奨されていますが、メータオ・クリニックもミャンマーコミュニティに対してラジオ放送や院内での実演を通じて、衛生的な手洗いやsocial distancingに関する情報提供を行っています。またメソトのミャンマー大使館付労働官(Myanmar Labor Attaché Mae Sot)を通じて布マスク2500枚、ハンドジェル2500個、また感染予防に関するポスターやリーフレットの提供も行っており、そのような地道な活動がミャンマーコミュニティでのアウトブレイク防止に役立っているのではないかと思います。メータオ・クリニックがミャンマー政府の関係機関と協調して活動することは例外的であり、これも今回のパンデミックがもたらした産物の一つと言えるかもしれません。

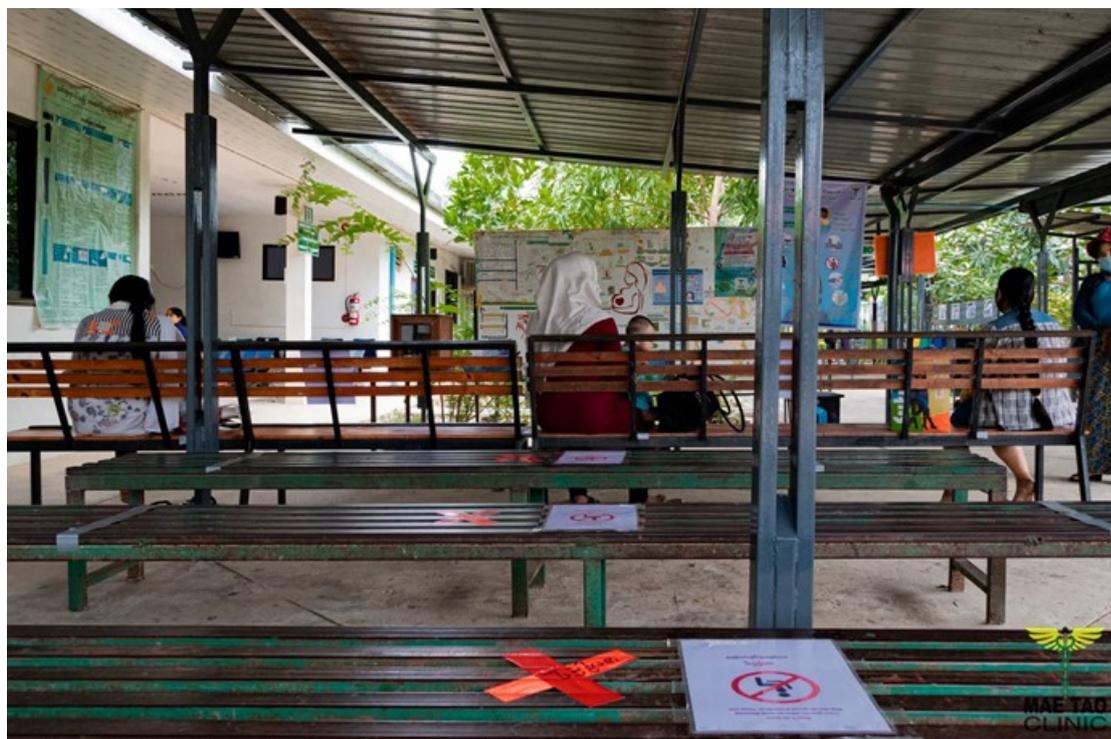
今回のCOVID-19パンデミックはアメリカやイギリスのような先進国においても経済的・社会的格差が命を選別することを、これまで以上にまざまざと見せつけました。国境の難民・移民の抱える困難は決して他人事ではなく、歴史的背景や社会制度は違えど、様々な形と程度で世界中どこにでも存在する問題なのだとの思いを深くしました。私は現在、都内の病院でCOVID-19の診療を行っていますが、タイの入国制限が緩和された後は、メソトに戻ります。次回の会報では、現地から、メータオ・クリニックとそのコミュニティのよりリアルな状況をお伝えできることを心待ちにしています。



写真①防護服を身に着けたスタッフ



写真②COVID-19 疑い症例のトリアージエリア



写真③ワクチン外来の待合室



写真④ 防護服を手作りするスタッフ

(写真①～③はメータオ・クリニック資金調達部門 Seongmin Kim氏、④はシニアメディック Saw Htike Htike氏により撮影され、許可を得て掲載しています)

国内から

JAM との縁

【佐藤 哲郎】

メータオ・クリニック支援の会（JAM）にボランティアとしてお手伝いさせていただいている佐藤と申します。この度はこのような機会をいただき、誠に感謝申し上げます。

私は現在、国立感染症研究所に勤務しており、実地疫学専門家養成コースで研修を受けている身分であります。昨今のコロナ禍で分かりやすく説明すると、厚生労働省クラスター対策班の接触者追跡チームの一員となります。ここで新型コロナについて書こうとするととても書き足りないので、本稿では私と JAM との関わりについてお話させていただきます。

私が初めて JAM の存在を知ったのは、学部 3 年生であった 6 年前の今頃です。長期休みの度に東南アジアでボランティアやバックパッカーをしていたので、東南アジアは知り尽くしたと思い込んでいた節に、「難民キャンプ訪問」という言葉に導かれ JAM のスタディーツアーに参加しました。

当時から将来は国際機関に勤務し、世界の感染症対策に携わりたいと考えていた私にとって、JAM のスタディーツアーは後頭部から強烈なツッコミをくらったような衝撃を与えてくれました。

タイが難民の存在を公式には認めていなかったから UNHCR といった国連機関が表立って活動できず、NGO 等の調整に徹していたこと。訪問したメラ難民キャンプにはソーラーパネルや DVD プレイヤーまで所有している家庭もあったこと。高等教育機関や職業訓練施設もあったが、



難民キャンプが解体されてしまうと学歴や資格としては何も残らないということ。難民キャンプ内で見えた鶏よりも、ミャンマー側の国境の町ミャワディで見えた鶏の方が痩せ細って見えたこと。当時の現地派遣員田畑さんがデング熱の予防啓発に奔走しており、バイクに跨り颯爽と我々の前に現れたこと。そして帰国直前に多くの参加者がインフルエンザのアウトブレイクを体感したこと。今でも昨日のこのように鮮明に脳裏に蘇ります。

そして何よりもかけがえのない出会いがありました。当時の参加者とは今も連絡を取っており、私が JICA 青年海外協力隊で派遣される前には壮行会をしてもらいました。各地で臨床や社会人大学院生として公衆衛生を学んでいる人もおり、良きライバルとして刺激をもらっています。また毎晩のように夢を語り合っていたことがきっかけで、小林先生から現在の所属である国立感染症研究所の実地疫学専門家養成コースを紹介していただきました。

JAM の現地派遣はもとより、貴重な経験をさせていただいたスタディーツアーも復活させられるような日々が早く訪れるよう、私も微力ながら尽力したいと思います。

編集後記

定期的に飲み会をしている飲み友達5人と今年の1月以降、会えてなかったのでこのたび、スマホのLINEで流行りのリモート飲み会を試みました。

先日、夕食の時間に夫だけパソコンとイヤホンとマイクを使ってリモート飲み会をしていたのですが、リモート飲み会に参加している人(夫)としていない人(私)が同じ部屋にいる場合(特に食事の時間に)、飲み会していないほうの人(私)は、うるさいなあと思い、まあまあ不快な気持ちになったので、私は、食事も一通りの家事なども済ませた夜八時半から十時までで開催しました。LINEのテレビ通話飲み会は気軽に始められ、とてもとても楽しかったのですが、直接会って話すと平気で4時間も5時間もあつという間なのに、今回は1時間半で非常に話し疲れました。聞くのもしっかり聞かないといけないし、話し声も大きくなりがちだからなのかな。でも、楽しかったので次回は違う手段で再挑戦してみようかと思いません。

次号の予定

次号は、8月下旬ごろ配信の予定です。

最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。

支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。



当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年

当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。



NPO法人メータオ・クリニック支援の会
Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て Eメール	support@japanmaetao.org
JAMウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

